<2030年のSDGs達成に向けた経営方針と目指す姿>

当社は社会や経済の持続可能性のために、グローバルな方針・目標に基づいて実践・発信することにより社会と喜びを共有し、社会とともに存在する企業となり、また社会からその存在を認められ、期待される企業の実現を目指します。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標>

三側面 (分野に☑)	SDGsに関する重点的な取組み	指標 (更新時に向けた数値目標)
☑ 環境 □ 社会 □ 経済	CO2・水・廃棄物使用量の削減	◆CO2排出量・・・2024年-21%('19年度比) → 2027年-33%('19年度比) ◆水使用量・・・2024年原単位4.069m ³ /百万円以下 → 2027年原単位3.740m ³ /百万円以下 ◆廃棄物削減・・・2024年原単位0.07t/百万円以下 → 2027年原単位0.065t/百万円以下
□ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	ジェンダーフリー・働きがい改革展開	・働きやすい環境づくり 従業員活性化 2024年3.21P → 2027年3.5P以上
□ 環境 □ 社会 ☑ 経済	雇用の安定的確保	・新卒者採用 2024年6名以上 → 2027年6名以上

・「SDGsに関する重点的な取組み」には環境・社会・経済の三側面の全てについて、重点的な取組みを記載してください。なお、取組みが複数の分野に該当する場合は、それぞれの分野にチェックを入れてください。
・「指標(更新時に向けた数値目標)」には、それぞれの取組みに対する「目指す姿」の実現を念頭に、それを評価するための指標と、現状の数値および更新時(3年後)の数値目標を記載してください。(例:採用の人数:2023年○人→2026年○人)更新時には実績を報告する必要があります。

<パートナーシップ>

当社は「社会や経済の持続可能性のために、グローバルな方針・目標に基づいて実践・発信することにより社会と喜びを共有し、社会とともに存在する企業となり、また社会からその存在を認められ、期待される企業の実現を目指します。

・「パートナーシップ」には、企業やNPO法人、行政など関係機関との連携を記載してください。

<SDGsに関する重点的な取組み及び指標に係るこれまでの進捗状況>

三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
☑ 環境 □ 社会 □ 経済	CO2・水・廃棄物使用量の削減	◆CO2排出量・・・2020年原単位-3% ◆水使用量・・・2020年原単位4.069m ³ /百万円以下 ◆廃棄物削減・・・2020年原単位0.07t/百万円以下
	取組みの進捗状況(実施状況や指標の達成状況など)	前期の指標に対する実績
	太陽光パネルの導入、CO2排出係数の低い燃料へのエネルギー転換、遮熱塗装による空調効率向上により、CO2削減排出量の削減。2023年は夏場の使用電力増加により(生産量増および暑さによる空調機使用増)コジエ設備を稼働したため、CO2排出量が増加。2020年、工場冷却塔の埋設配管からの水漏れが老朽化により発生し水使用量が増加した。食堂の食器洗い場の人感センサー導入により水使用量削減、廃棄物分別による有価物化推進により廃棄物の削減を達成。	◆CO2排出量 21年達成(-1%),22年達成(-6%)、23年未達(+4%) ◆水使用量 20年未達(+31%),21年達成(-1%),22年達成(-20%)、23年未達(-23%) ◆廃棄物削減 20年達成(-6%),21年達成(-10%),22年達成(-7%)、23年未達(-12%)
三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
□ 環境 ☑ 社会 ☑ 経済	ジェンダーフリー・働きがい改革展開	・活性度評価:やりがいある仕事 3.5以上 働きやすい環境 3.5以上
	取組みの進捗状況(実施状況や指標の達成状況など)	前期の指標に対する実績
	従来のマネジメント研修の継続実施だけに限らず、自己研鑽の機会を創出し、個人のスキル意識を向上させる足掛かりとして、新たに個別で選択できる教育・資格習得が行えるプログラムのテスト運用を行ない、「やりがいのある仕事」としては目標達成。 一方で「働きやすい環境」においては、生産台数・新たな部品立上げが重なり、限られた領域の中で作業空間が十分に確保できない状況となり、目標達成には至らなかった。	やりがいある仕事 3.64P 働きやすい環境 3.21P
三側面 (分野に☑)	前期のSDGsに関する重点的な取組み	前期の指標
□ 環境 □ 社会 ☑ 経済	雇用の安定的確保	・新卒者採用:6名以上/年
	取組みの進捗状況(実施状況や指標の達成状況など)	前期の指標に対する実績
	将来の新卒採用に繋がる施策として以下を展開中。 ・中学校への出前授業の実施(産学連携) ・熊大ロールモデル講演会への参加(産学連携) ・インターンシップの積極受け入れ(熊本大学/支援学校/その他常連校) ・工場見学の積極受け入れ(工業高校) ・各種協賛(大学団体主催の祭り/高校吹奏楽後援会など)	2022年:8名(達成) 2023年:11名(達成) 2024年:13名(達成)

・「三側面」、「前期のSDGsに関する重点的な取組み」と「前期の指標」には、前回登録申請した際に記載した「三側面」、「SDGsに関する重点的な取組み」と「指標」をそのまま転記してください。

・「取組みの進捗状況」には、取組みの実施状況や指標の達成状況を記載してください。指標が未達成の場合は、その理由等も記載してください。

・「前期の指標に対する実績」には、「前期の指標(数値目標)」に対する実績を数値を用いて記載してください。